

2. 果菜類の接木による土壌病害虫防除

ア. きゅうり

- ・つる割病に対する抵抗性台木
ブルームレス台木 例：NEWスーパー雲竜、昇竜、ビッグパワー、ひかりパワーG、FGY
エキサイトー輝、ストロングー輝、オールスターー輝、つやかEX
- ・うどんこ病に対する抵抗性台木
ブルームレス台木 例：ときわパワーZ2、ときわGT-II、スターク、ぞっこん

イ. すいか

- ・つる割病に対する抵抗性台木
ゆうがお台木 例：かちどき2号、FRヘコタレン、FRダントツ、タフガイ
とうがん台木 例：ライオン冬瓜、ベスト冬瓜2号
すいか台木 例：タフネス
とうがん台木は草勢がやや弱く、低温伸張性や耐湿性は劣る。そのため、ゆうがお台木に比べ5～7日早播きして胚軸を太くしておく必要がある。

ウ. メロン

- メロンは接木不親和の問題が起りやすいが、つる割病の多発生ハウスでは次の共台を用いる。
- ・つる割病に対する抵抗性台木（アムス等）
例：園研メロン台木3号、ガイア、ワンツージャット、ダブルガード、ワンツージャック
 - ・えそ斑点病に対する抵抗性台木
例：ワンツージャット、ダブルガード、ダブルガードEX、ワンツージャック

エ. とうがらし類

- 疫病、青枯れ病、PMMoVに対する抵抗性台木
例：台パワー、台助、バギー、ベルホープ

オ. トマト

接木栽培では台木と穂木のToMV抵抗性型の適合性に注意する。

表. 代表的なトマト台木とその特性

台木の種類	病害虫名	青枯病	萎ちょう病	根腐萎ちょう病	半身萎ちょう病	褐色根腐病	ネコブセンチュウ	ToMV (抵抗性型)
青枯病抵抗性群 (高温期)	キングバリア	◎	○	○	○	○	○	Tm-2a
	グリーンガード	◎	○	○	○	○	○	Tm-2a
	グリーンフォース	○	○	○	○	○	○	Tm-2a
	Bバリア	◎	○	○	○	×	○	Tm-2a
	がんばる根トリパー	◎	○	○	○	△	○	Tm-2
	がんばる根ベクト	◎	○	○	○	△	○	Tm-2
	がんばる根フォルテ	◎	○	○	○	△	○	Tm-2
	がんばる根クリフ	○	○	○	○	○	○	Tm-2
	がんばる根パルテ	○	○	○	○	○	○	Tm-2
	がんばる根カリス	○	○	○	○	○	○	Tm-2
	がんばる根サバンナ	◎	○	○	○	○	○	Tm-2
	グランシールド	◎	○	○	○	○	○	Tm-2a
新カップルT	○	○	×	○	×	○	Tm-2	
ヘルパーM	○	○	×	○	×	○	Tm-1	
ドクターK	×	○	○	○	○	○	Tm-2a	
根腐萎ちょう病抵抗性群 (低温期)	プロテクト3	○	○	○	○	×	○	Tm-2a
	スーパー良縁	○	○	○	△	×	○	Tm-2a
	助人	○	○	○	○	○	○	Tm-2a/Tm-2
	タイアップ	○	○	○	○	○	○	Tm-2a
	フレンドシップ	○	○	○	○	○	○	Tm-2a/Tm-2
	レシーブ	◎	○	○	○	×	○	Tm-2a/Tm-2
	ブロック	○	○	○	○	○	○	Tm-2a/Tm-2
	マグネット	○	○	○	○	○	○	Tm-2a/Tm-2
バックアタック	○	○	○	○	○	○	Tm-2a	

(注1) Tm-1型：保毒型抵抗性 Tm-2a型：過敏型抵抗性
Tm-2型：ToMVの種類によっては保毒型であったり、過敏型であったりする。
(注2) 青枯病については、特に抵抗性が強いものを◎として表示した。
(注3) 詳しくはメーカーのカタログを参照する。

カ. な す

- ・下記の台木を利用することにより、耐病性が増すだけでなく吸肥性、耐暑性、耐寒性が向上し多収となる。

表. 代表的ななす台木とその特性

病害虫名 台木の種類	青枯病	半身 萎ちょう病	半枯病	ネコブセ ンチュウ	初期収量
ヒラナス（アカナス）	×	×	◎	×	多
耐病VF	×	○	◎	×	多
緋脚	×	○	◎	×	多
トルバム・ビガー	○	○	◎	△	多
アシスト	△	×	◎	×	多
ミート	△	○	◎	×	多
カレヘン（露地栽培）	○	×	×	×	やや少
赤虎	△	×	○	×	多
台太郎	○	×	◎	×	多
トレロ	○	○	◎	×	一
トナシム	○	○	◎	△	多

（注1）◎：強度の抵抗性 ○：かなりの抵抗性 △：抵抗性であるが、レースによっては罹病する ×：罹病性

（注2）詳しくはメーカーのカタログを参照する。

3. 糖蜜を利用した防除

昆虫が発酵臭に誘引される習性を利用して、果樹の害虫であるヤガ類を糖蜜トラップで捕獲する。

（1）使用上の注意事項

- ア 各種の手法と組み合わせて総合的に防除することが重要である。
- イ 空き缶には雨水が入らないように上部に傘を掛けておく。
- ウ 園周辺の山地に近い方に木に吊す。
- エ 目安は10a当たり50個とし飛び込み量で調整する。
- オ 糖蜜液は5～7日ごとに補充する。

（2）糖蜜の使用量

作物	害虫名	使用量
ブドウ ナシ モモ	ヤガ類	直径8～10cmの空き缶や空き瓶にハチミツ10cc、酒30cc、酢30cc、水230ccの割合になるよう混合する。

4. 光を用いた病害虫防除

(1) 黄色灯等による害虫防除

ア、注意事項

- ① 黄色灯の利用の目的は、果樹では吸汁性ヤガ、チャバネアオカメムシの果樹園への侵入・果実の吸汁抑制であり、野菜や花き、茶では雌成虫の産卵抑制による次世代幼虫の食害抑制である。
- ② 野菜や花き、茶では、点灯開始期にすでに産卵されていたり、幼虫が発生していると蛹になるまで加害が続くので、効果が安定するまで時間がかかる。
- ③ 害虫の発生に応じて、他の防除手段も併用する。
- ④ 作物の生育に及ぼす影響には十分注意する。
- ⑤ 周辺作物と夜間景観への影響には十分注意する。水稻では10ルクス以上の明るさで出穂が遅延するので、ほ場が水田に隣接している場合は注意する。
- ⑥ コガネムシ類が誘引されることがあるので注意する。
- ⑦ 効果のみられる明るさは1ルクスが目安なので、作物上での照度が1ルクス以上になるように配置する。果樹のチャバネアオカメムシには2ルクス必要。
- ⑧ 黄色系の光源は、580 nmに最大波長がある黄色蛍光灯などが有効である。近年は光源に省電力で長寿命のLEDを使用した器具も開発されており、使用に当たり各器具の取り扱い説明書をよく読み、正しくそれに従うこと。

イ、使用方法

作物	害虫	点灯方法
ナシ ブドウ モモ リンゴ	ヤガ類 チャバネアオカメムシ ※ツヤアオカメムシ・クサギカメムシには効果がないので注意	ヤガ類 7月下旬～収穫終了まで終夜連続点灯 (日没直前～日の出直後) チャバネアオカメムシ 5月上旬～収穫終了まで終夜連続点灯 (日没直前～日の出直後)
カーネーション	タバコガ オオタバコガ ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ	7月～11月 終夜連続点灯 (日没直前～日の出前まで)
トマト トウガラシ キュウリ メロン イチゴ	オオタバコガ タバコガ ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ ウリノメイガ	7月～11月 終夜連続点灯 (日没直前～日の出前まで)
スイートコーン	オオタバコガ タバコガ ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ ウリノメイガ	7月下旬～11月上旬まで終夜連続点灯 (日没直前～日の出前まで)
茶	チャノホソガ	<設置例> 4月中旬～11月上旬まで終夜連続点灯 (日没直前～日の出前まで)

(2) 紫外線 (UV-B) を利用したイチゴうどんこ病防除

ア、特徴と留意点

- ① 葉への紫外線 (UV-B) 照射により、イチゴの誘導抵抗性が活性化されイチゴうどんこ病に予防効果を示す。
- ② 紫外線照射 (UV-B) の防除は予防効果のため、うどんこ病が発生していない健全な苗を定植するとともに発生前から継続して照射する必要があり、発生した場合には農薬と併用する必要がある。
- ③ 管理や収穫作業時の照射はできないが、夜間の照射で十分な防除効果が認められるため、夜間に照射するのが望ましい。

イ、注意事項

紫外線 (UV-B) は人体に有害であるので、ランプを直視しない。また、紫外線 (UV-B) に皮膚をさらさないようにする。